

研修会に参加して

平成19年度スキルアップ研修会 (児童奉仕部門コース1)に参加して

木野 慶子

スキルアップ研修会は、2年連続の研修で、コース1では、乳幼児サービス～絵本とわらべうたのリストをつくる～をテーマとしています。昨年度の第1回・第2回は、講師に、長年司書として区立図書館に勤務されていた落合美知子氏をお迎えし、おはなし会でできるわらべうたや手遊びを教えてくださいました。第3回は、前回までの内容を踏まえ、グループごとにわらべうたのリストの作成と、3才向けの読み聞かせを入れたわらべうたの会のプログラムを考えました。

今年度の第1回(6月14日)の午前中は、コース1・2合同で「出版社における著作権業務」という題で、福音館書店宣伝部ライセンス課課長有賀武史氏が講演をされました。図書館との関わりが深い業務としては、非営利使用への対応で、二次的使用が許諾されるまでの流れでした。当初、1～2週間はかかっていた許諾

までの日数を減らすために、福音館書店が著者・著作権者に予め基準を提示し、それに沿った回答をしてよいかの委任を受けることで、回答までの日数が短くなったそうです。その基準によると、大型絵本化・紙芝居化は基本的に許可しないそうですが、一概にはいえないものの、ペーパーサートやパネルシアターは認められる方針だそうです。個人的にはとても意外に感じました。

午後は、浦安市立中央図書館資料第一係長 伊藤明美氏が「赤ちゃん(乳幼児0歳～2歳)と絵本」と題し、1. 赤ちゃんに絵本は必要か 2. 乳幼児の発達段階 3. 赤ちゃん絵本の特徴 4. 図書館で赤ちゃん絵本をすすめることについてお話しいただきました。乳幼児の発達段階を、からだ・コミュニケーション・ことばについてまとめられた資料は、第2回以降のグループ討議で、赤ちゃん絵本をどのくらいの年齢・月齢の子どもにすすめるかを考える上で、

大変参考になりました。また、多くの絵本を紹介しながら、ことばが短く、わかりやすく、正面性があり、リズムがよいという赤ちゃん絵本の条件を教えてくださいました。そして、ブックリストを作成するにあたり、絵本の選び方の視点と、読み方・与え方といった図書館でしかできないことを盛り込むようにというアドバイスがありました。

第2回（9月13日）・第3回（11月1日）は、グループごとに、研修会参加者が選んだおすすめの赤ちゃん絵本（0才～1才向け）（1～2才向け）を、子どもの発達、色・言葉のリズム、読んであげた時の反応、読む時のアドバイスというポイントで評価し、解題を作成しました。グループ討議によって、自分で読んだ時には見落としていたことに気づくことができました。また、普段、赤ちゃんに読み聞かせをする機会がほとんどないので、メンバーの方から、赤ちゃんに読み聞かせをした時の反応を聞くことができ、勉強になりました。2回で合計60冊程の絵本を検討するというので、1冊にかけられる時間が少なく、完成度が高い紹

介文には至らなかったように思います。しかしながら、今後、それぞれの館で、赤ちゃん絵本のブックリストを作成する場合に、きっと参考となることでしょう。当館では、今まで、3才未満の子どもが対象となる絵本のブックリストがなかったので、今回の研修の内容を参考にして、作成したいと思います。

（八街市立図書館・主任司書）

